

鳴門市明神小学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- ① 主体的に学び、表現できる児童の育成
- ② 主体的で対話的な授業づくりと実践

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員 (教務主任)	委員	
	校長	低学年:
	教頭	研修主任
	特別支援	中学年:
	高学年:	

校長

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○朝の活動の時間や授業において、与えられた課題を解決するために、真面目に取り組むことができている。 ●段落相互の関係や問いの意図など、文章を正確に読み取る力に課題がある。	・学習の過程を通して基礎・基本の力を身につけ、習得した知識が他の学習や生活で活用することができる。 ・書かれてあることを正確に読み取ることができる。	・授業の初めに、前時の復習時間を確保したり、朝の活動の時間に反復学習を行ったりすることにより、基礎・基本の定着を図る。 ・教科書にアンダーラインを入れさせることにより、書かれていることを的確に捉えさせる。	・朝の活動や宿題において、学習したことを反復学習させることにより、基礎・基本の定着や活用する力を身につけられるようにする。 ・アンダーラインを引いたところをもとにして、大事なところや要点をまとめられるように	・その日に学習した内容を中心に宿題を出したり、朝の学習の時間にドリルやプリント、小テストなどを行うことで、学力向上を目指すことを心がけた。 ・大事なところにアンダーラインを引かせることにより、児童の読む力と要点をまとめる力が高められるように努めた。	・特に算数の授業においては、終末に適用問題を解かせることにより、本時に学習した内容の定着がはかれるようにする。 ・基礎的・基本的内容を生かして発展問題にも取り組ませることにより、活用する力が身につけられるようにする。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○自分の考えを文章で表現したり、発表したりする児童は多い。 ●教師や友達の話を最後まで静かに聞くことができない児童がいる。 ●自分の考えと友達の考えを比べて聞いたり、複数の資料を比べてして、自分の考えを広げたり深めたりすることを苦手としている。	・話す・聞くなどの基本的な学習態度を身につけている。 ・話し合い活動を通して、自分と友達の考えを比べ、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。 ・学習や生活において、適切な言語活動により表現することができる。	・話し方の話型や聞き方を提示することにより、場に応じた話し方・聞き方ができるようにする。 ・ホワイトボードやタブレットを活用した話し合い活動を設定することにより、友達の考えから自分の考えを広げられるようにする。 ・「なぜ」、「どうして」などの発問を行うことで、児童の考えを深めさせるようにする。	・話し方の話型を活用して、自分の考えとその理由(根拠)が言えるようにする。 ・友達と自分の考えを比べて、見方や考え方が広がるような授業展開の工夫を行う。	・タブレットを活用して、一人ひとりの考えを共有したり、自分と友達との意見を比べたりする授業づくりに努めた。 ・発表では、自分の意見と理由(根拠)が言える児童、「なぜ」「どうして」という切り返しの発問に対して、さらに詳しく説明できる児童が増えつつある。	・タブレットをどの単元でどのように使えば学習効果が高まるのか、しっかりと教材研究を行い、授業で使っていくことができるようにする。 ・自分の考えや理由(根拠)の伝え合い、自分と友達の考えの比較ができるように、引き続き話し方の話型を活用する。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○得意なことや興味のあることには意欲的に挑戦し、やらなければいけないことは最後までやり遂げようとする姿が見られる。 ●苦手な学習は、すぐにあきらめてしまう児童が多い。	・各教科の学習に主体的に取り組むことができる。 ・自分の学習の課題を把握し、解決できるように根気強く努力することができる。	・「キャリアパスポート」や「すくすく瀬戸っ子成長の記録」を活用することにより、児童が学習のあゆみを振り返ることができるようにする。 ・授業のめあてを提示することにより、児童に学習の見通しを明確にもたせるようにする。 ・学校だよりや学年だよりなどを活用することにより、家庭との連携を図る。	・学習課題に対する自力解決の時間を設定することにより、自分で解決できた達成感をもたせ、次の学習への意欲をもたせるようにする。	・自力解決の時間を設けること、考えを共有する時間を設けることにより、「できた」「分かった」と感じる児童が増えつつある。 ・「すくすく瀬戸っ子成長の記録」を活用することにより、児童の学力(得意分野・苦手分野)について家庭との連携を図ることができた。	・自力解決の時間、考えを共有する時間、まとめ(ふり返り)の時間を確保することにより、「できた」「友達に認められた」という達成感を味わわせ、学習意欲の向上を図っていく。また、ふり返りを書かせることにより、児童に学習の体得を実感させることができるようにする。

令和3年度 学力向上ロードマップ

